

子どもたちの貧困をなくす街に

日本の子どもの貧困率が戦後最大の16・7%（6人に1人が相対的貧困）となりました。経済的な困窮が原因と思われる少年事件が続き、児童相談所の虐待相談も13年度には7万件を超えました。未来を作る子どもたちのために、孤立と貧困を放置しない社会を作りましょう。

子どもたちに未来をあきらめさせるな

四年前の市議選で「生活保護制度は困窮者対策に不十分。新しい制度を作りたい」と訴えてから、貧困や社会的孤立の問題に取り組んできました。困窮世帯には、将来の見通しが立てられずに、勉学にも就労にも積極的になれない子どもたちが一定数います。

なれない子どもたちが一定数います。

日本のGDPは世界第三位。それなのに、経済的、あるいは社会的な理由で進学や、希望する就労をはじめからあきらめてしまう子どもたちを作り出してしまっている。今、広がりつつある孤立と貧困の問題を

解決しなければ、どんなに数字上の『好景気』が続いたとしても未来は暗いものにならざるを得ません。

『共助』と『公助』の新たな仕組みを

世界的に見れば豊かな国である日本で、なぜ餓死者が出てしまうほどの貧困が存在するのかと言えば、税金の取り方と使い方に問題があるからに他なりません。悪意とは思えない『生活保護者バッシング』が国会の中でも繰り返され、困っていても「助けて」と言えない空気が生まれています。この社会的孤立が貧困の広がりにつながっています。

岩手も盛岡も決して豊かな場所ではありません。大都市と比べてそれほど物価が安いわけでもありません。しかし、食べるものや自然エネルギーの素はあふれています。これらを手く利用する仕組みを作れば、将来に渡って市民の暮らしを存続できるはずだと私は考えます。その取り組みの一つとして「フードバンク岩手」の活動を始めました。

市民が少しずつ力を出し合う『共助』の活動を広げると同時に、教育・医療・介護に関する費用は、EU諸国のように『公助』として社会が負担していくべきです。

投機経済を煽って公的資金を注入しても市民のくらしは良くなりません。貧困をなくし、市民生活を存続させることに税金を使う政治を実現させるために、私は努力します。



いせ 志穂

盛岡市議会議員 無所属

■多様、公正、共助の政治をめざします。

「多様」は発展を産み、「公正」はやる気を起こさせます。人口と経済が縮小していくこれからの日本ではよそから奪うことに血道をあげるのではなく、持っているものを分け合う「共助」の施策を推し進めます。

■生活に直結する視点を持ち続けます。

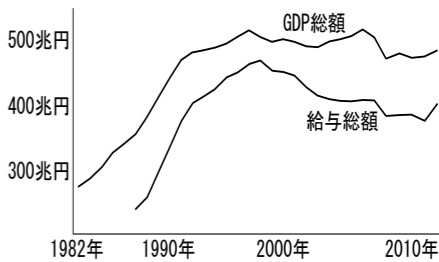
私が福祉に重点を置いているのは、それが景気浮揚や治安の安定につながるからです。特定のイデオロギーや団体の利益からではなく市民生活を利する施策を選択します。

困った時に「助けて」と言える街に



できずに生活が破綻するケースが増えていますが、これは多くの人に起こり得ることです。

根本的には資産課税を強化



所得格差を是正する力が弱いからです。

失業や疾病、災害、家族の介護など不慮の事態が起きた場合、個人や家族だけでは対応

生活困窮者支援・フードバンク活動が盛んな街に



フードバンクとは、家庭や企業などで保管されたまま使われない食品を寄付してもらい、地域の生活困窮者や児童・障がい者施設などに届ける活動です。

貧困の深刻化を背景に全国に広がっていますが、私も「フードバンク岩手」で活動しています。

今は「お金を持つてい

社会参加の機会がすべての人に開かれている街に



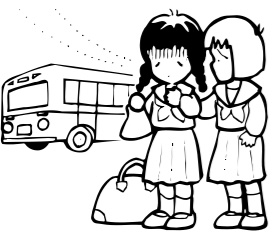
日本の子どもの貧困率が戦後最大となり『貧困の連鎖』が社会的な問題になっていきます。勉強を教えるだけではなく、様々な大人とふれ合うことで社会経験をつちかう

学習支援などの場づくりを推し進めます。同様に、子どもたちの居場所づくりやその存続に力を入れます。

基本的人権と平和を守るために努力する街に

日本国憲法第11条から13条には『基本的人権の尊重』について記されています。私は「日本に暮らす誰もが、公共の福祉に反しない限り、幸福や自由を追求する権利を持つており、国民はそれを守るために不断の努力をしなければならぬ」というこの条文が大好きです。今後守っていきたくて考えています。価値観や生活様式が多様化しているはずなのに、人権が軽視されている社会的少数者がいます。子どもやひとり親家庭、障がい者、在日外国人やLGBTの人たちなどが差別を受けずに生活できる仕組みを作ると共に、少数者の理解にむけた啓発事業を行います。

自動車がなくとも暮らせる街に



少子高齢化の中で、街の機能を維持していくためには、コンパクトなまちづくりが必要です。今までも築川ダム建設計画の中止運動、土地画整理事業や都市計画道路路網の見直し、公共交通や自転車利用を促進する施策の実施に力

- ◆ 社会保障強化の財源は資産課税強化
- ◆ 小児医療費助成や就学支援金の拡充
- ◆ 各種相談支援体制をさらに強化

なければ何もできない」社会になりすぎて、収入が減ることに対する不安が私たちの生活を支配しています。しかし、人はたった一人で生きているわけではありません。人と人とのつながりを強め、助け合って暮らせる地域福祉社会の実現をめざします。

- ◆ フードバンクを困窮者支援の制度に
- ◆ 連帯保証人制度の緩和
- ◆ 自主的・自発的なまちづくり活動推進

社会から阻害されているのは子どもたちばかりではありません。障がい者や孤立無業の若者、高齢者など「働きたい」「誰かの役に立ちたい」と考えているのに難しい状況に置かれている人たちがいます。本来、社会に必要な人はいません。就労や社会参加のマッチングを研究し、施策化を行います。

- ◆ 子どもの学習支援や居場所づくり
- ◆ 障がい者や若者など就労・社会参加推進
- ◆ 就労マッチングの研究と施策化

国の安全とは軍事力だけではなく、外交や経済関係、情報収集、食糧やエネルギー確保など、総合的な国力によって作り出すものです。憲法9条は平和国家日本を全世界に示すことで安全保障の一翼を担っています。外交の強化や国家間の交流を棚上げし、憲法改正を行うのことは、国民の命を危険にさらす行為なので、断固反対します。また、食糧やエネルギー自給率向上のために、休耕田の利用や自然エネルギー利用を推進します。

- ◆ 社会的少数者の権利擁護
- ◆ 安保法案反対
- ◆ 原発再稼働を止め自然エネルギーへ転換を

を注ぎ、一定の成果を上げることができました。今後も自転車で安全に走れる道（自転車レーン）を延長していくことや『買い物難民』が生まれないうように、バスや電車など公共交通が使いやすい街にしていく活動を続けていきます。

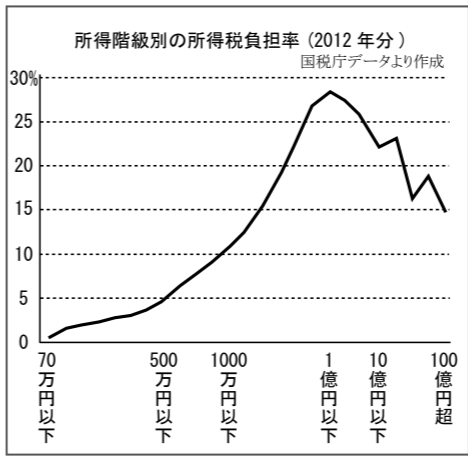
- ◆ バスや電車など公共交通を使いやすく
- ◆ 自転車レーンの延長・ネットワーク化

大富裕層への資産課税で

復興と社会保障を前へ

金持ち日本がなぜ財政危機？

下の表は日本の金融資産（現金預金や株式・証券、その他債権など）が富裕層に偏っています。これによると13年の日本の富裕層は百万世帯、純金融資産総額は24兆円。11年からの2年間で世帯数は24%。純金融資産総額は28%増加しました。現在の日本の税制では、金融資産の保有に税金はかかりません。

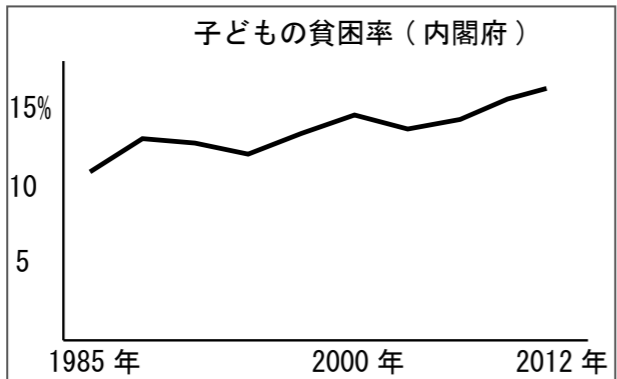


右は所得別で「所得税をどれだけ負担しているか」を示したグラフです。1億円までは所得が増えるほど税負担は重くなるのに、所得1億円を越えると税負担は低くなっていきます。

乱暴な言い方になりますが「投機の元手(金融資産)をたくさん持っている人達が、儲ければ儲けるほど税金の負担は低くなる」のが、今の日本の税制です。これでは、国民の資産格差・所得格差は開き、財政危機に陥るのは当然です。

持ってる人がたくさん払う税制改革を

日本の輸出依存度は11.4%で、経済は内需依存型です。このままでは、格差の広がりが国内市場を縮め、景気悪化の最大の要因になってしまいます。



税額控除（「負の所得税」の考え方で税額控除で控除しきれなかった一定割合を現金給付する仕組み。アメリカ、イギリスなど10ヶ国以上が採用）の実施を政府は決断すべきです。財源は①金融資産への課税②巨大な利益をあげている法人の特別優遇の廃止③総合累進課税の強化（所得に応じて税率が上がる）によって確保することができます。

社会保障の充実

や復興事業の継

続、消費税増税の

中止と、給付付き

やると決めれば猪突猛进



フードバンクで
困窮者に食料支援



被災地支援



ホスピスボランティア講座



自転車走行レーン



青山雪あかり



議会基本条例

- ◆社会保障・福祉の強化
 - ・フードバンク岩手結成に尽力
 - ・被災地ボランティア受入に奔走
 - ・県内のホスピス設置に尽力、ホスピスボランティアの養成講座開催
- ◆子ども支援
 - ・岩手にチャイルドライン設置
 - ・犯罪に巻き込まれにくい公園設計提案
 - ・不登校・ひきこもり支援
 - ・「マンガ家岩手応援ツアー」案内人
- ◆まちづくり
 - ・車道に自転車レーン設置
 - ・新駅アンケート調査、青山新駅設置
 - ・子供たちによる青山新駅レンガタイル貼りワークショップの実施
 - ・青山町覆練兵場保存
 - ・青山雪あかりの実施
 - ・八幡番屋の望楼や旧岩手川「浜藤の酒蔵」保存活用提案
- ◆財政再建
 - ・不正経理の税補填をやめさせる
 - ・岩手競馬への融資に反対
 - ・市長の退職金、大幅減額実現
 - ・マリオス補助金6億円を中止させる
 - ・築川ダム利水縮小で約60億円削減
- ◆議会改革
 - ・政務調査費領収書添付義務を実現
 - ・政務調査費使途基準を策定
 - ・市議会インターネット中継一部実現

◆1962年盛岡市生まれ(53才) ◆厨川小、厨川中、盛岡三高、岩大教育学部特美(中退)いわて生協でパート後、岩手アイワに勤務 ◆99年盛岡市議当選、現在四期目(会派は絆の会) ◆次世代健全育成特別委員会委員長 ◆06年城西中PTA会長 ◆厨川小図書ボランティア ◆孝仁病院緩和ケア

病棟ボランティア ◆青山まちづくり協議会企画・広報部会 ◆東日本大震災での経験から、困窮者支援の必要性を痛感。『フードバンク岩手』の結成に参加し活動 ◆縮小が見込まれる財政状況の中で『支え合って生きる地域』を作ろうと試行錯誤中 ◆マンガ好き。それ以上活字中毒 ◆忌野清志郎とBUMPを愛するB型

いせ志穂の
あゆみ

新しい時代を切り開こう

相談のみならず、意見、要望、提案などお寄せください。(匿名でもかまいません)
かなうようにがんばります。



ボランティアとカンパ募集中



いせ志穂事務所と市民会議はボランティアとカンパで運営されています。このニュースを知人に見せてください。ポスティングなどお手伝いいただける方は、ぜひご協力をお願いします。震災の影響で景気が最悪の中で大変心苦しいお願いですが、可能な場合はカンパへのご協力もよろしくお願いします。

事務所 盛岡市青山3-29-4 〒020-0133

電話・FAX **645-8510**

自宅 盛岡市前九年1-9-26 〒020-0127

<http://ise.nahan.jp/> E-mail: ise@nahan.jp

発行 市民会議 2015.4.23